

(様式2)

議員行政視察報告書

議員名	安田 佳正
視察地	当麻町 トウマ電子工業株式会社
視察年月日	2023年11月27日
視察内容（目的・具体的内容・成果等）	
サウナを活かした観光振興について	
<p>そもそも当麻町とサウナはZOZO創業者の前澤友作さんが2020年11月ツイッターに「今年納付予定のふるさと納税約8億円の寄付先を探しています。有効活用していただける自治体の首長の皆様、街を良くしたいと思う地元の皆様、ハッシュタグ #ふるさと納税8億円アイデアをつけて皆様のアイデアやご意見をツイートください！」とつぶやき、それに対し町長は、『テレワーク拠点（精神と時の部屋の“ととのう”サウナ」完備）を整備したい！木々に囲まれハンモック・焚火を感じながら…カヌーで川波に揺られながら…、ワーク×リフレッシュ×アクティブ etc、「日本一“ととのう”テレワーク聖地化」まちづくりへ、前澤さんのお力を！』とつぶやきました。最終的には当麻町を含め156の自治体に500万円が寄付されました。</p> <p>因みに北海道では、愛別町、芦別市、安平町、江差町、雄武町、釧路市、釧路町、猿払村、新ひだか町、大樹町、鷹栖町、弟子屈町、美幌町、広尾町、八雲町、余市町、利尻町、利尻富士町、当麻町を含む19の自治体に500万円を寄付し、ふるさと納税の寄付先には「返礼品は辞退します」と表明しました。</p> <p>町長のツイッターには、「前澤さまの応援のお気持ちに応えるべく、当麻町、しっかりと北海道サウナスタイルを創り出すべく、官民協働の力でチャレンジさせていただきます！前澤さま、ありがとうございました。」と書かれていました。</p> <p>この前澤 友作さんのふるさと納税の支援をきっかけに官民協働の力による、</p>	

Made in 当麻町「“ととのう”町」サウナプロジェクトがスタートして、メインチャレンジとなったのが、民間活力による国内初キャンピングサウナバスの開発でした。

キャンピングサウナバスは森林組合と協力して、車内には当麻町の木材を使用、サウナの薪ストーブは国内で生産されているものはゼロだったので当麻町にある世良鉄工株式会社で制作してもらった。バスの車検に関しては有限会社当麻モーターズが運輸局と話し合い車検を通してもらった。完全に民間で作り上げたものでした。キャンピングサウナバスはふるさと納税の返礼品でもあり、レンタルも行っているそうです。

旭川にもたくさんサウナがあるので、サウナを活かしたまちづくりをしたらよいと思いました。

(様式2)

議員行政視察報告書

議員名	安田 佳正
視察地	当麻町 株式会社 リズムキャピタル
視察年月日	2023年11月27日
視察内容（目的・具体的内容・成果等）	
サウナを活かした観光振興について	
<p>2021年の夏にオープンした「りとりーとびれっじ Tō ma」が、22年7月に「Koti Private SAUNA Cottage」に生まれ変わりました。</p> <p>「Koti Private SAUNA Cottage」の宿泊施設は民家をリノベーションし、木材は上川産と下川産のトドマツを使用して1日1組限定の木材のぬくもりを感じることが出来る宿泊施設で、門には当麻町の木材を使用していました。</p> <p>サウナは4つあり、壁がヘンプクリート、ストーブは長野県のケンズメタルワークで製作した薪ストーブのコヤサウナ（薪）、丸い大きな樽のようなバレルサウナ（薪）、日本初といわれているアースバッグサウナ（薪）、電気アースバッグサウナ（電気）は午前中に訪れた「トウマ電子」が開発した開発したサウナストーブでした。</p> <p>サウナストーブに使用されている石は当麻町産の赤いチャート岩石が使用されており、ふつうの石と違いはぜないとのことでした。</p> <p>旭川市でも21世紀の森など自然の中でサウナを楽しむことが出来ると良いと感じました。</p>	

(様式2)

議員行政視察報告書

議員名	安田佳正
視察地	幌加内町
視察年月日	2023年11月29日
視察内容（目的・具体的内容・成果等）	
<p>バイオコークス製造によるゼロカーボン化について</p> <p>先日18日に行われた「市民と議会の意見交換会」で話題になった幌加内町で進めている「蕎麦殻を主体としたバイオマス原料からの低コストバイオコークス製造実証事業」の話を聞きに行ってきました。</p> <p>バイオコークスは幌加内町ときたそらち農協、エア・ウォーター、JFE条鋼(株)、巴ボイラでつくる共同事業体です。バイオコークス（BIC）は近畿大学の井田教授が世界で初めて開発した固体燃料でカーボンニュートラルなバイオマス固体燃料なので燃やしてもCO₂はゼロカウント、製造技術は確立しており、プロセスは容易、長期保存に適し、管理が容易（災害用にも最適）、相対重量収率100%で小規模地産地消に適する、産業・工業分野でも使用できるバイオマス固体燃料です。</p> <p>幌加内町もゼロカーボンシティ宣言をしており、その一環としてそば殻・そば残渣の有効利用などから低コストバイオコークス製造実証事業にとりかかりました。北海道庁のゼロカーボン・イノベーション導入支援事業の補助金を利用。バイオコークス製造工場は来年3月に完成予定です。</p> <p>旭川市もゼロカーボンシティ宣言を行っているが目に見えるものがなく、旭川市ではもみ殻や汚泥を使ったバイオコークスを製造すると良いと思いました。</p>	

(様式2)

議員行政視察報告書

議員名	安田 佳正
視察地	士別市 かわにしの丘 しずお農場株式会社
視察年月日	2023年11月30日
視察内容（目的・具体的内容・成果等）	
農場・キャンプ場等の体験型観光による観光振興について	
<p>かわにしの丘 しずお農場株式会社は士別の大手建設会社しずお建設運輸株式会社のグループ会社で、はじめは20年前の2004年で建設会社は冬の仕事が少なく、社員は雇用保険で養わなければならぬ、冬は農家の仕事をしてもらった。士別市にはニッテン（日本甜菜製糖株式会社士別製糖所）があり、当時は50台くらいの運び込みがあったが、現在は10～12台の運び込みとなり、原因は離農しはじめビートの栽培の存続が問題となり、運輸会社4社がJVを組み自社でビートを栽培しました。士別市のしずお建設運輸株式会社、富良野市の北央貨物運輸株式会社、遠別町の株式会社遠別トラック、美瑛町の株式会社丸善運輸の4社が農業法人を取得して栽培、運搬を行っています。</p> <p>士別市では50年前に特産品をサフォーク羊にしたのですが、これも離農する人が増え、市の方からサフォーク羊の飼育もやってほしいと頼まれ、しずおグループ今井裕会長がはじめられたそうです。牛や豚と違い羊に関する飼育の教科書がなかったので、焼尻島に泊まり込みで行ったり、白糠町で有限会社茶路めん羊牧場を運営している武藤浩史さんにも会いに行ったそうです。羊専門の獣医がいないので症状や治療法が分からなかったので出産事故も多くめん羊牧場は長続きしなかった。羊肉には関税がないのでオーストラリアやニュージーランドには勝ち目がないので、販売先が見つからなかった。2010年横浜APECでは、しずお農場のサフォーク羊のメインディッシュとなったり、全日空の国際線ファーストクラスの機内食にも選ばれ、多くの首都圏のレストラン</p>	

やホテルから注文が増えました。昭和57年（1982年）に市民団体が主体となり、サフォーク羊を核に地域の活性化をめざそうという取り組みが推進され、市民参加による「サフォーク研究会」が設立され、羊の肉は臭いからタレに漬け込むジンギスカンとなったが、研究会での成果で青い草を食べさせると肉が臭くなり、乾燥させた牧草だけだと肉は臭くならないことが分かりました。そしてニッテンからビートの搾りかすをもらい食べさせることによって脂身が美味しくなったとのことでした。

キャンプ場のきっかけはレストランには4部屋の宿泊施設もあるが、街へ飲みに行くといっても歩いては行けず、酒を飲みながらゆっくり出来ないかと考えていたところ、知人からアウトドアに詳しい億貞くん（私も友人である）を紹介され、キャンプ場を新たに作ることにした。羊の肉でバーベキューや生ビール、キャンプファイヤーを楽しみ、子どもたちにも喜んでもらいテストキャンプは良い結果となった。しかし2020年はコロナ初年度となり、4月29日に静かにオープンしたが多くの人が集まった。お客さんが喜び、それをSNSなどに掲載するので、6月後半には週末の予約が取れなくなり、キャンプブームの到来となった。4部屋の宿泊施設も稼働し、お土産も買って帰ってくれるので、キャンプ場との相乗効果が出ている。北海道内でこのように民間でのキャンプ場はいくつあるのだろうか？旭川でも是非民間のキャンプ場を作ってもらいたいと思いました。